

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム タンポポ福祉館
(ユニット名)	りんどう棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県、鹿児島市
記入者名 (管理者)	井田 裕子
記入日	平成21年12月28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のありのままの姿を受け入れこれまでの生活習慣や自尊心を傷つけないよう心しながら地域密着型サービスとしての役割をミーティングのなかで話し合い「地域住民との交流」をめざした理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングの前に職員全員で唱和し日々のケアの中で意識するように取り組んでいる。理念はホール・玄関など見やすい所に掲示し日々目にしながら勤務している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・ホールに理念を掲示し面会時、訪問時に読んで頂いている。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の民生委員の方々との関わりを深め地域に関する情報を得たりホームの運営に対する協力がもらえるよう築いている。年1～2回地域の小学生や中学生の生徒さんが遊びに来て下さる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年々利用者様の高齢化もあり地域に出かけることが困難になる。老人会や地域のボランティアの皆様を訪ねて頂き交流をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	町の救急ステーション、救急ボランティアに登録し、いつでも手助けできるような体制である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	管理者を中心に職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価についても職員に報告があり具体的な改善に向けて話し合いをしている。		
	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議は2ヶ月に1回開催し利用者、利用者の家族、民生委員、包括支援センター、社会福祉協議会などの参加のもと「地域に根ざしたホームのあり方」について話し合っている。職員が記録している。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	入居者様との関わりの中で疑問点や分からないことがある場合包括支援センターや市役所に相談をし連携をとり、指導助言を受けている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	最近研修を受け学ぶ機会があったので今後活用できるように生かして行きたい。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	管理者は申し送りやミーティングの中で日々話しをし職員も研修に参加し意識を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	おもに管理者が家族と面談し施設見学をして頂いたり説明をし理解納得をして頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも誰でも意見や要望、苦情など表出できるよう意見箱を設置し又職員は入居者様がいつでも話せる雰囲気を作っている。意見があったらカンファレンスで検討する。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者様の状況をおたよりで送付している。特別な時は電話連絡をする。領収書も毎月送付する。職員の移動等は家族の面会時に挨拶を行う。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご要望をお伺いしたり年に2回家族会を開催し意見を出して頂く。問題点や意見はミーティングやケアプラン作成時に話し合う。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの場で意見や要望を出しそれに対して対応してもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月管理者に希望を出し勤務表を作成していただく。緊急時には管理者、職員が協力し要望に柔軟に対応して頂いている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段よりユニットごとに行き来があり毎日の出勤時には2ユニットの入居者に挨拶をし顔なじみの関係が築かれている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部からの研修案内にはその必要性からよく参加させて頂いている。復命書も書き毎月のミーティングで報告し知識を高める努力をしている。新任者教育も行われている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年1回、4グループホームの交流会の場があり意見交換ができた。1グループホームとはお互いの推進会議に参加し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>パート職員が多く休日が多いためストレスは軽減されている。管理者はミーティングのなかでストレスを貯めないよういつも話しをされている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>一人一人の職員のレベルや勤務状況を把握し研修に参加している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談があった時その都度ゆっくり話を聞き職員で対応できない事は、管理者に報告して管理者に処理、対応してもらってえる。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者の担当職員を決め1ヶ月に1回おたよりを送付している。家族の面会時はお茶をだ職員は家族と話す時間を取るようになっている。相談事や不安な事などよく聞き管理者に報告し対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている要望を聞き、見極め、必要に応じ他の支援機関に相談し利用するようにしている。又、紹介も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの見学を本人、家族にして頂いている。利用されるようになってからも家族と連絡をとり安心して頂くよう又頻繁に面会して頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で昔話しや本人の得意なことを生かせるよう配慮している。入居者も得な仕事や昔はなしをされるときはいきいきされている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の生活環境を把握し無理しないよう配慮し家族と協力し支えでいけるよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月1回担当者が状況報告の手紙を送付している。家族が面会に来られた時はお茶をだしくつろげるよう、又ゆっくり話せるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢者で自宅への外出、外泊が困難なケースが多く、馴染みの人や親戚の方々はホームでの面会が多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活はほとんどホールで過ごし頂きレクリエーションなどおこなっている。できない方も一緒に参加して頂き入居者同士の関わりを多くしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には「困ったことがあったらいつでも相談してください。」とはなしをししたり又見舞いに行ったりしている。家族がホームに寄られることもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
はあく				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時どのような生活を望んでおられるのか、生活歴、習慣、好き嫌い等情報収集をおこなっている。さらに日常生活での言動やきずきを記録し職員間で共有している。思いや意向の把握が困難な方は家族に確認する。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人家族と話をし情報を得る。以前いた施設等のサマリ等活用したり連携を図る。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の言動、態度から、その方を理解するように努めている。又毎日の申し送りの中で総合的に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に来られたとき入居者と一緒に希望を伺ったり又カンファレンスの中で職員と検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行い定期的にモニタリングや評価を行い毎月カンファレンスで話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日介護記録に記録し職員全員が情報を共有している。急変があった場合は赤のボールペンで書き目につきやすいように工夫する。		
情報				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医体制を活かし受信の支援、医療処置を受けながら生活の継続など柔軟な支援を行っている。今年より訪問マッサージを利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回推進会議を開催し地域での連携を図っている。小学校、中学校の職場体験、消防所より避難訓練、救命講習を受講している。地域の老人会等の交流も行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や必要に応じ他のサービス事業者の支援を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	分からない事や相談事があった時その都度包括支援センターに相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人、家族の希望により受診をして頂いている。相談したい時は連絡し指示をあおいでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p> <p>本人、家族の心配や希望があったり、職員が対応できない場合等認知症の専門医に診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p> <p>職員に看護師がおり協力医療機関との連携を取りながら医療、健康管理を支援している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>医療機関と情報交換をし又家族と相談しながら早期退院に向け備えている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>入居の契約時に入院が必要な場合等のホームの方針を理解して頂いている。早い段階から家族、医療、と繰り返し話しあっている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>家族会や個別に家族に説明し今後の変化に備え話合うようにしている。診察時に家族に立ち会って頂き医者の意見も聞いて頂くようにしている。</p>		る
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>アセスメント表やサマリーでこれまでの情報提供を行い早く慣れて頂けるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの声かけ、失禁した時の対応、入浴時の対応等誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。個人情報の保護や誓約書を作成し秘密保持に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の希望や思いが表出できるよう働きかけている。本人のできること、できないこと見極め納得して生活できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れのなかで特に行動を制限することなく一人ひとりのペースや思い、希望にそった支援をおこなっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服は季節に合わせて本人の希望を取り入れることに配慮している。美容院は月1回近くの行きつけの所にお連れし外出の楽しさや地域の方々と交流もされている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等して頂いている。できる方には配膳、下膳、おぼん拭き等して下さる方もおられる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶、牛乳、ジュース等本人の希望に応じてお出ししている。職員の手作りおやつも大好評です。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食物、水分補給、日中の運道等で習慣的に排泄できるように支援している。失禁される方には定時のトイレ誘導をおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など決まりはあるが、本人の希望に応じて、柔軟に対応し、都合が悪い日は、別のユニットで対応を行う。無理強いする事はない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気のよい日は布団を干したり、シーツ洗い等定期的に行っている。排泄等不安な方には夜間ポータブルを置くなどし安心して頂いている。		
はあく				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を唄ったり、踊ったり、テレビ、雑誌、新聞を見たり、又元気な方は散歩にいかれたりして楽しんで頂いている。季節がら毛糸を手編みされる方もいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物にお連れする。一部の方は小額を管理されて使えるよう支援している。。また希望に応じて職員が買ってきている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外気浴、家族との外出等支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、お花見、外食、ドライブ等出かける機会を多く作り支援している。家族とともに出かける機会を多く作るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者には家族へ手紙や年賀状をかいでもらい郵送している。家族への電話を希望される時はその都度対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方が知人や親戚の方と面会に来られた時はお茶を出し居心地よく過ごせ頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員が一体となり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前は県道で大型車など交通量が多く安全面を考慮し、又ご家族の同意の上玄関には、鍵をかけている。日中は職員が付き添い散歩や外気浴を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が必ず見守りにつき所在や様子を把握し安全に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要なものは倉庫に保管、管理し日常最低必要な物は危険のないよう常に見守り点検をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年間を通じて救命講習、消防講習等を学び知識を身につけ事故防止に努めている。又1ヶ月に1回避難訓練を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が救命講習、受講し日常の応急手当は看護師が指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回推進会議を開催し折りにひれ民生委員の方々、地域の方々に協力を得られるようお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会や家族の面会時に説明している。毎月1回家族に状況報告書で情報を伝えている。		ており早期に対応
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと毎回の食事量のチェックを行い早期発見に努めている。職員の観察力もよくできており早期に対応をおこなっている。。早めの医療機関への受診を心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員間の申し送りを蜜に行っている。個人の薬の説明書を読み内容を把握し事故のないように注意しながら服用せ頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取の確認と毎日の排尿チェックを確認しながらコントロールを行っている。又食材の工夫や散歩、運動を行うように心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、手洗い、うがいを取り入れ口腔ケアを取り入れている。出来ない方には職員が口腔清拭を行っている。就寝時は義歯をはずし洗浄剤に浸し保管している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は栄養士が定期的にチェックし栄養バランスに配慮したものとなっている。食事量は個々の食べる量を把握し加減している。又、食事量は毎回チェックし記録にのこす。また水分補給は職員が個々にきおつけ飲んでいただいている。</p>	h	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>入居者、職員は全員、インフルエンザの予防接種を毎年受け手洗いうがいを励行している。天気の良い日には布団を干しシーツも毎週洗い清潔に努めている。感染予防については研修をおこない使い捨ての手袋等を使用している。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理前に必ず手洗いし、まな板や調理器具は熱湯消毒してから使用している。食材は毎日買出しに行き新鮮な物を使用している。又、冷蔵庫の掃除は毎週1回行う。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>				
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関バリアフリーで段差もなく出入りしやすい。玄関前には庭があり季節の移り変わりを楽しんでいる。又ベンチを用意し外気浴やレクリエーションなど行っている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファーや畳の部屋等があり個々自由に過ごしている。玄関にはいつも季節を感じさせる花がいけてある。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファーで過ごしたり、テレビを見たり、自室で過ごしたり思い思いに過ごしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた寝具、家具、衣類など馴染みのものを自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や共有空間は整備されており職員が調整している。又フィルター掃除も定期的に行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており要所には手すりが設置され自立した生活が送れるよう工夫してある。又ホールを囲んだ居室作りで入居者様の行動が把握しやすい。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には名札、のれん、目印等をつけ分かりやすくしている。洗面所、トイレには表示してある。重度の認知症の方がおられ理解されないときはその都度誘導を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを設置し外気浴、レクリエーションが出来るようにしている。又隣接する畑では野菜作りを行い収穫の喜びを持たれる。芝生もあり、ゆっくと過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな自然と広々とした広場や畑があり、季節を感じながら生活できている。清潔な環境作りを目標に布団干し、1日6回のトイレ掃除、朝、夕の掃除、食後の雑巾がけを行っている。入居者一人ひとりの出来ること、出来ないことを見極め、本人にあった介護を行っている。

- ①環境に恵まれ布団干しや洗濯物を干す場所が多く、天気の良い日には全員の布団が干され気持ちが良い。
- ②勤務者は出勤時と退所時にトイレ掃除を行う。(1日6回のトイレ掃除)
- ③午前、午後の外気浴、散歩
- ④隣接している芝生の広場と畑の野菜で季節感を味わう。
- ⑤食事はすべて手作りでほぼ全量摂取です。そのため皆様お元気です。⑥ホールをを囲んだ居室であるため入居者の行動の把握がしやすい。